

「会長挨拶」

稲門バレーボール倶楽部

会長 金川 裕一(昭和 57 卒)



日頃は当倶楽部活動、現役支援などにご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。ご承知の通り、昨年一年は大変厳しい年になりました。

2月3日に横浜港に停泊したダイヤモンドプリンセス号にコロナウイルス感染者が発生して以来、人々の暮らしが一変してしまいました。マスク着用、手洗いうがいの励行、ソーシャルディスタンスの日々の感染対策はもとより、外出、会食の自粛などの緊急事態宣言下でこれまでの日常が失われてしまいました。

この1年は春のリーグ戦の中止に始まり、主要な公式試合の延期中止が相次ぎましたが、最後の最後で出場チームを絞りながら全日本インカレの開催がようやくできるという状態でした。このような厳しい環境下で現役の活動も大きな制約を受けたものの、プレッシャーもかかる中、男子部は見事に4連覇を果たしてくれました。しかも失セット0という完全優勝というまさに学生最強を示してくれました。もちろん試合で勝つことも重要なのですが、最も誇れるのは男女現役学生がこのコロナ感染拡大にもかかわらず一人の罹患患者も出さなかったことです。現場を指導するスタッフの皆さんはじめとする早稲田バレー部の関係者の意識の高さと節度ある行動の賜物であると思います。皆さんにこの場を借りて感謝する次第です。

さて今年、早稲田バレーボール部は創部90周年を迎えます。これまで50、60、70周年の節目には、記念誌の発行やイベントを開催するなど、様々な取り組みを行ってききましたが、今年はこのような状況下で具体的にどのような取り組みを行っていくかは現時点では未定です。しかし、ワクチン接種が始まりコロナが終息に向かった暁には皆さんとともに創部90周年を心から祝いたいと思います。

最後に先日、稲門体育総会が開催されました。河野洋平会長から来年が早稲田スポーツ発祥125周年になるとの報告がされ、その後に競技スポーツセンター長から早稲田スポーツの新たな取り組みについて説明がありました。この中で現役を強化していく上で必須の活動支援金を如何に集めていくかについては、これまでの大学の考え方を一歩進めて世の中のITツールなども活用していきたいとのことでした。当倶楽部においても毎年、稲門会費を徴収し現役支援を実施していますが、それにも限界があり問題は尽きない状況ですので、新たな収益、支援活動を独自に検討していく必要があると考えています。その手始めとして昨年末にクラウドファンディング的な取り組みに挑戦したところ、2か月間で延べ50名ほどから150万円を超える支援金が集まりました。今後もこのような活動を色々行うことで会員間の融和、懇親を深め、現役の支援をさらに強化していきたいと思いますので、引き続き変わらぬご支援ご協力をお願いして2021年の会長挨拶とします。